

**製品名: FOXP2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81610**

研究使用のみ

**概要**

|        |   |
|--------|---|
| 説明     | マウスモノクローナル抗体                                      |
| 宿主     | ねずみ   |
| 応用     | WB,ELISA,FC                                       |
| 反応性    | 人間  |
| 標識     | 非共役   |
| 修飾     | 未修正   |
| アイソタイプ | Mouse IgG1  |
| クローン性  | モノクローナル   |
| 形態     | 液体  |
| 濃度     | 1mg/ml  |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋  |
| バッファー  | 0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体                       |
| 精製     | アフィニティー精製   |

**応用**

|      |   |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400 |
| 分子量  | 80kDa   |

**抗原情報**

|              |  |
|--------------|--|
| 遺伝子名         | FOXP2  |
| 別名           | SPCH1; CAGH44; TNRC10                        |
| 遺伝子 ID       | 93986.0                                      |
| SwissProt ID | O15409                                       |
| 免疫原          | 大腸菌で発現したヒト FOXP2 (AA: 641-740) の精製された組み換え断片。 |

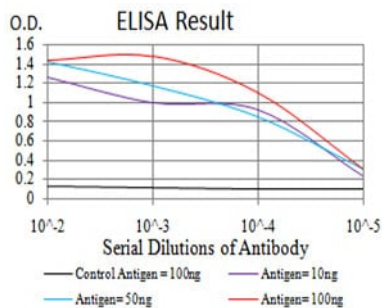
**背景**

この遺伝子は、フォークヘッド/ウィングドヘリックス (FOX) 転写因子ファミリーのメンバーをコードしています。胎児および成人の脳だけでなく、肺や腸などの他のいくつかの臓器でも発現しています。このタンパク質産物は、FOX DNA 結合ドメインと大きな

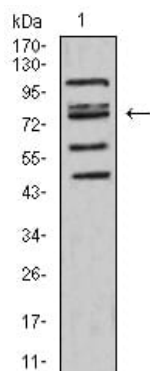
ポリグルタミン領域を含み、進化的に保存された転写因子であり、ヒトゲノム中の約 300~400 の遺伝子プロモーターに直接結合して、様々な遺伝子の発現を制御していると考えられます。この遺伝子は、胚発生中の脳の音声および言語領域の適切な発達に必要であり、最終的に言語発達に影響を与える可能性のある様々な生物学的経路やカスケードに関与している可能性があります。この遺伝子の変異は、常染色体優性遺伝性口腔顔面協調運動障害を伴う音声言語障害としても知られる、音声言語障害 1 (SPCH1) を引き起こします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の代替転写産物が同定されています。

## 研究分野

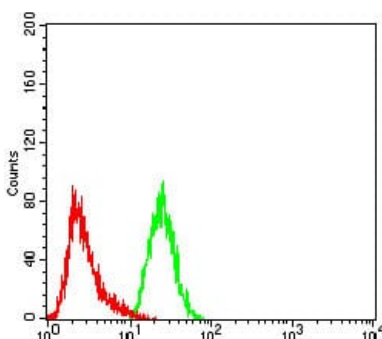
## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



FOXP2 マウス mAb を用いた HepG2 (1) 細胞溶解物に対するウエスタンブロット解析。



FOXP2 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。